

平成30年度高次脳機能障害支援拠点
第1回支援コーディネーター全国会議

高次脳機能障害の社会的行動障害による
社会参加困難事例に関する
精神科医療機関の調査

とき:2018年6月27日(水)

ところ:国立障害者リハビリテーションセンター学院6階

京都府リハビリテーション支援センター
京都府立医科大学神経内科

武澤信夫



背景

2006年度より高次脳機能障害支援普及事業が実施され、高次脳機能障害者への診断・リハビリや就労支援が進んできた。

しかし社会行動的障害は、依存性・退行、感情コントロール低下、対人技能拙劣、固執性、意欲・発動性の低下などが挙げられ、困難事例では、衝動性や脱抑制が強く、暴力行為、万引き等の触法行為を繰り返すことがあり、家族や支援者が疲弊する。

そのため、困難事例に対する診断・治療、リハ、支援の在り方について検討する必要性がある。そして、平成28年度より厚生労働科学研究費補助金による「高次脳機能障害者の社会的行動障害による社会参加困難への対応に関する研究」（研究代表者：中島八十一）が開始された。

目的

京都府リハビリテーション支援センターでは、相談支援事業と京都府立医科大学神経内科の高次脳機能障害外来における診断・評価・治療と協力して、支援普及事業を実施してきた。

高次脳機能障害外来においては、社会的行動障害による社会生活困難な事例については、薬物療法、生活指導・訓練、認知リハなどを提供し、必要に応じて精神科との連携をしてきた。この間の我々の困難事例についての取組の現状を報告する。

また、近畿地方における高次脳機能障害支援事業と精神科医療機関との連携の実態について調査し、今後の診断治療、支援の在り方について検討する。

高次脳機能障害専門外来の現状

期間：2007年4月1日～2016年3月31日 対象：高次脳機能障害の連続症例139名

	A群	B群	C群	全体
	社会生活に問題 となる社会的行 動障害 なし	社会生活に問題 となる社会的行 動障害 あり	社会生活が困難 となる社会的行 動障害 あり	
対象数 (名)	81 (58.3%)	38 (27.3%)	20 (14.4%)	139
男性:女性 (名)	59:22	29:9	16:4	104:35
平均年齢 (歳)	44.1	41.7	35.9	42.3 (4~77)
TBI	36名 44.4%	21名 55.3%	12名 65.0%	69名 50.4%
脳血管障害	30名 37.0%	10名 26.3%	3名 15.0%	43名 30.9%
その他	15名	7名	4名	10名 18.7%

(武澤信夫:高次脳機能研究 37(3):293-300:2017)

社会生活が困難となる社会的行動障害C群を 3群に分類

	C1群	C2群	C3群
	衝動性の強い 症例	衝動性と知的障害 を伴う症例	幻覚妄想を伴う 症例
対象 (男性:女性)	10名 (6:4)	6名 (6:0)	4名 (4:0)
平均年齢	40.7 歳	27.8 歳	35.8 歳
	(19~66歳)	(17~46歳)	(18~54歳)

PDFTBI(頭部外傷後精神病): Fujiiら(2002、2012) 統合失調症様・パラノイアの状態
頭部外傷の3.4~8.9%に出現

慢性外傷性脳症(CTE): 進行性の認知機能低下、punch-drunk syndrome

社会生活が困難となる社会行動障害症例の転帰

転帰	C1群 衝動性の強い症例	C2群 衝動性と知的障害を伴う症例	C3群 幻覚妄想を伴う症例
対象	10 名	6 名	4 名
一般就労	3 名	0 名	2 名
福祉就労等	4 名	3 名	0 名
在宅生活	3 名	2 名	2 名
精神科併診	4 名	3 名	4 名
精神科入院歴	0 名	1 名	4 名

事例紹介

相談支援事業における社会行動障害

	相談実数	社会生活が困難となる社会行動障害			
		C1群	C2群	C3群	不明
2011年度	166	2			
2012年度	183	1			1:気分障害合併
2013年度	169	1	2	1	1:閉じこもり
2014年度	162	1	1	1	1:万引き・窃盗
2015年度	125	1			1:統合失調合併
計	805	6	3	2	4

・5年間の相談事業における困難事例の比率:1.9%

社会的行動障害の診断・評価における問題点

1) 認知機能の障害

：特定の情報処理の障害として、特定のネットワークの損傷を神経基盤として想定される障害

- ・失語・失認・失行
- ・記憶障害
- ・注意障害
- ・遂行機能障害

2) 社会的行動障害

：さまざまな問題行動の総称としての障害名

- ・認知機能障害を神経基盤としている行動障害
- ・二次障害としての行動障害
- ・PTSD
- ・転換性障害
- ・その他

高次脳機能障害に関する精神科医療機関の調査

対象：近畿地方の精神科医療機関で、各府県のホームページより検索した。

	病院	診療所	合計
京都府	41	95	136
滋賀県	18	25	43
大阪府	145	443	588
兵庫県	61	151	212
奈良県	12	40	52
和歌山県	13	32	45
全体	290	786	1,076

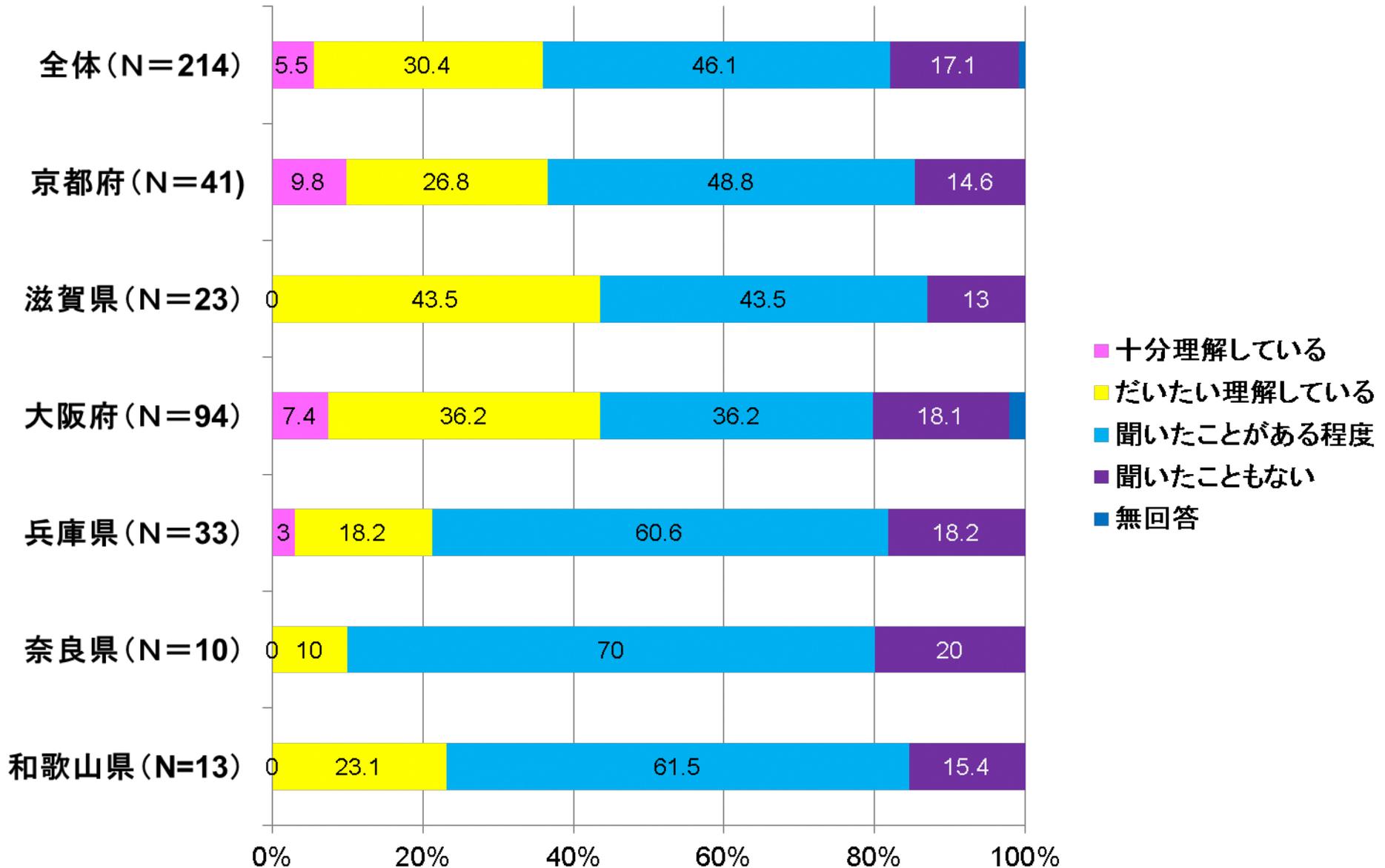
調査期間：京都府：2017年2月1日～2017年2月15日
滋賀県：2017年3月10日～2017年3月21日
大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県
2017年9月5日～2017年9月30日

有効回答数と本調査におけるデータ収集上の問題

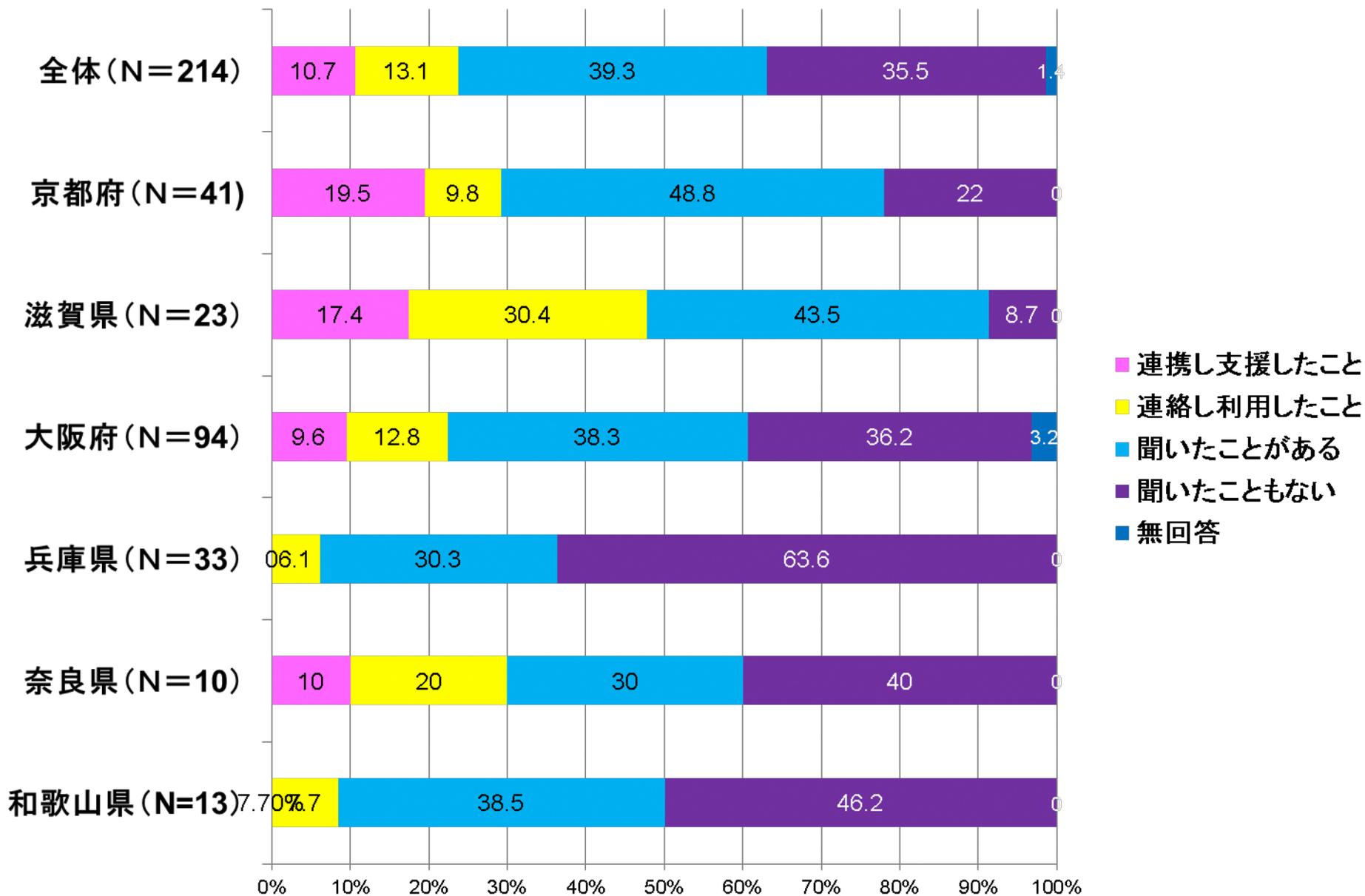
	病院 回答数／施設数 (回答比率)	診療所 回答数／施設数 (回答比率)	合計 回答数／施設数 (回答比率)
京都府	23／41 (56.1%)	18／95 (18.9%)	41／136 (30.1%)
滋賀県	11／18 (61.1%)	12／25 (48.0%)	23／43 (53.5%)
大阪府	18／145 (12.4%)	76／443 (17.2%)	94／588 (16.0%)
兵庫県	8／61 (13.1%)	24／151 (16.0%)	33／212 (15.6%)
奈良県	2／12 (16.7%)	8／40 (20.0%)	10／52 (19.2%)
和歌山県	9／13 (69.2%)	4／32 (12.5%)	13／45 (28.9%)
全体	71／290 (24.5%)	143／786 (不明+1) (18.2%)	214／1076 (19.9%)

京都府と滋賀県では、支援拠点からの調査依頼。

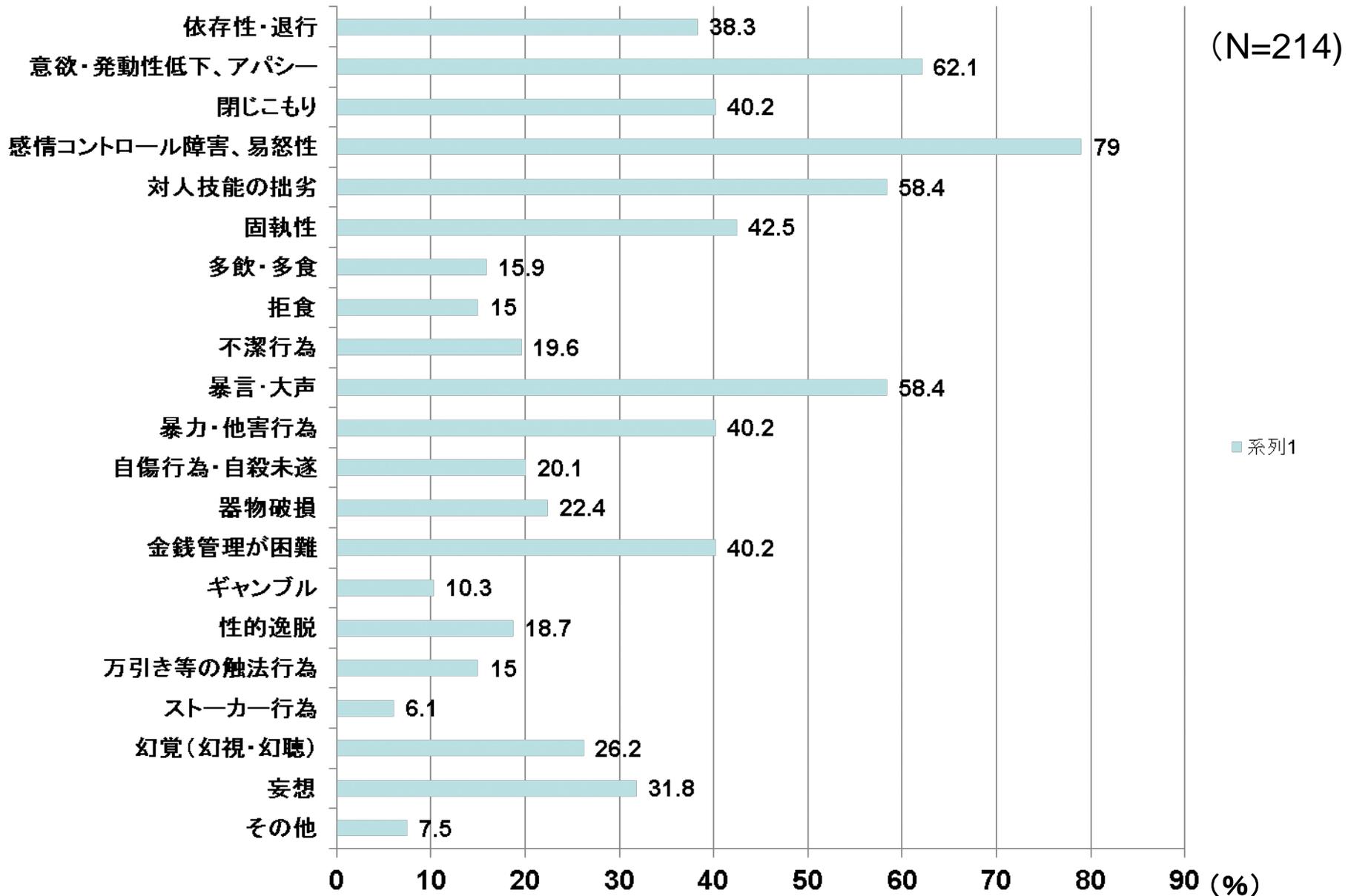
高次脳機能障害支援普及事業への理解程度



高次脳機能障害支援拠点との連携した施設比率



社会的行動障害の経験した症状の施設の比率(複数回答可)



社会的行動障害の経験した症状の施設の比率(複数回答可)

